

2020年2月23日(日) 近畿旧友会ハイキングクラブ「燦歩会」例会 (第489回)

さんぽかい

さいぎょうにゆうじゃく

ひろかわでら

とんだばやしじないまち

西行入寂の弘川寺と富田林寺内町を散策(大阪)

新型コロナウイルスの流行が止まる所を知りません。私たちもマスクを着用して燦歩です。なにしろ重症化しやすいのは「高齢者」「持病のある人」という事ですから、私たちにとって切実な問題です。

近鉄長野線の富田林駅に9時50分に集合。

快晴です。日向ではポカポカするほどです。

参加はビジター1名を含めて15名。(男性11名、女性4名)

ただちに、バスで弘川寺に向かいます。20分程で到着です。

大阪府と奈良県の境をなす、二上～葛城～金剛の山並みの麓、小高い所に弘川寺はあります。端正な静かな境内でした。

寺は665年に役小角(役行者)によって創建され、行基や空海もここで修行し、また歌人西行が生涯を終えた事で知られています。



平安時代末の1188年、この寺の空寂(くうじゃく)上人は宮中に呼ばれ、後鳥羽天皇の病氣平癒を祈願して、効を認められます。翌年その空寂上人を慕って寺を訪れたのが西行です。武士の身分を捨てて23歳で出家して以来、各地を遍歴して来た西行。満開の桜と満月の下で臨終を迎えたいと、以前から念願していました。

「願はくは花の下にて春死なん そのきさらぎの望月のころ」

そしてこの地で、翌1190年2月16日に、まさに歌の通りに亡くなります。

お釈迦様の命日2月15日にも1日遅れただけです。享年73歳でした。

その生き方、往生の仕方が願いの通りだったという事で、親交のあった藤原定家や僧慈円らの感動と共感を呼んだという事です。

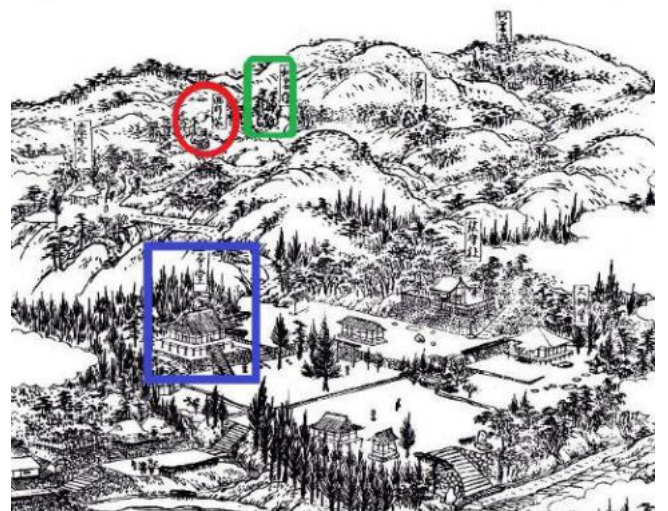
ところが、隆盛を極めていた弘川寺も、1463年に兵火によって全山焼失。寺勢も衰え、西行終焉の地であることは長く忘れられ、墓所も分からなくなってしまったのです。江戸時代ようやく復興した弘川寺へ、西行を慕って多くの文人が訪れるようになります。しかしお墓がどこにあるのか分からない。そんな状態が続いていました。

1732年になって、僧侶で歌人の似雲(じうん)が、西行の墳墓をようやく発見します。

1801年に刊行された「河内名所図会」の弘川寺です。本堂(青印)を見下ろす小高い所に、西行塚(赤印)がしっかり描かれています。

似雲の墓(緑印)は、西行の塚と同じ台地の端にあります。

西行塚を探し当てるまでの不思議な物語は、長くなるので補足に譲り、境内を散策します。



本堂脇の急な山道を登ります。西行の塚は広々とした台地の、一番奥まった所に、穏やかに鎮まっていました。



似運の墓は、その西行の塚を見守るかのように、遙か手前に離れて、立っていました。



西行ゆかりの史料を集めた記念館は、期間外で見る事が出来ませんでした。（残念☹️）

満開の紅梅の下で記念撮影です。

再びバスで富田林に戻ります。大和川の支流「石川」の河岸段丘に開かれた町です。「富田芝」と呼ばれていた荒れ地を、京都興正寺（こうしょうじ）の証秀上人が、1558年に買い受けます。4町四方の原野の中心に御坊興正寺別院（ごぼうこうしょうじべついでん）を建立、周辺の4つの村の名主（みょうしゅ）8人と共に、富田林寺内町（じないまち）を開きます。戦国時代の事ですから、町の周囲には土居を巡らせ、竹を植えて、備えていたそうです。

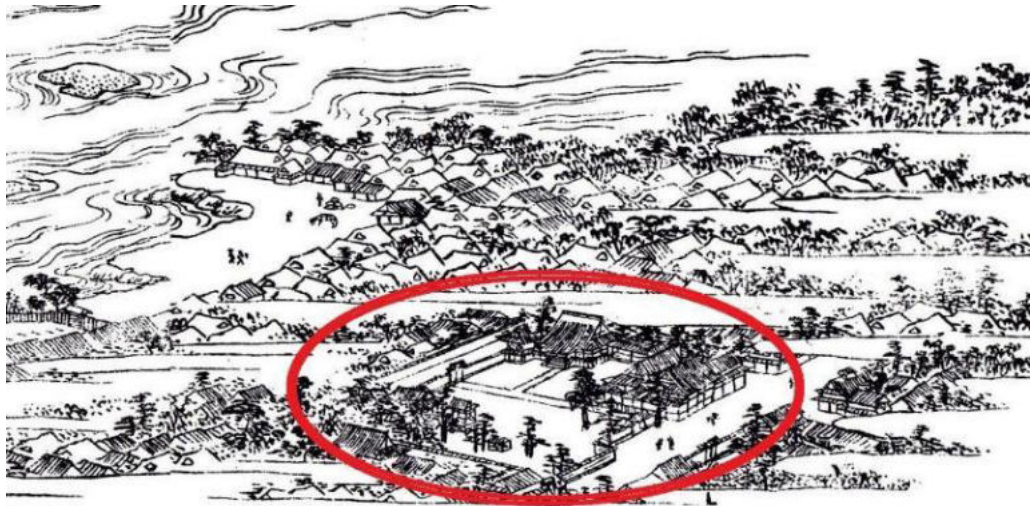


ボランティアガイドさんの案内で、町内を巡ります。電柱が無く、整然と美しい家並が続きます。裾は褐色の板壁、その上に真白い漆喰の土壁・軒、そして黒い瓦屋根。まことに心地よいコントラストです。いま、東西400m、南北350mの地区で、600軒の内400軒が伝統的な町家だそうです。

戦国時代の街らしく、道は要所ですらして交差、見通しを妨げています。（当て曲げ）屋根にはかまどの煙を排出する煙出し（けむりだし）、そして明り取りと通風の為の虫籠窓（むしこまど）。様々な知恵と工夫が見られ、それがまた美しいのです。



河内名所図会は、富田林の町を「都会の地なり」と評しています。「市・店が立て続き、商人多く、水が良いため 酒造業の家が建ち並んでいる」と。絵からも、御坊（赤印）を中心に、多くの家並が続いている事が見て取れます。

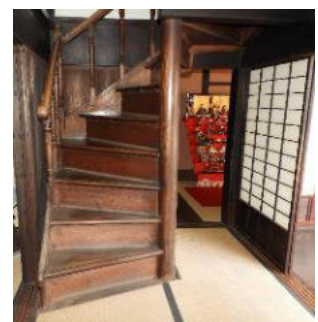


江戸時代初期1644年の記録では、町の家数は289軒、人数は1,222人です。職業も分かります。商家76、薬屋8、鍛冶屋6、紺屋5、樽屋・車屋・唐笠屋各2等々、住民の3分の1以上が、商人・職人で占められています。町は更に酒造業、絞油、木綿問屋が増加して発展、18世紀半ばには人口も1,700人を超えています。



町の中心、御坊・興正寺別院です。門は京都伏見城から移したものだそうです。荘厳の美しい本堂内を拝観する事が出来ました。国の重要文化財に指定されていて、近く本格的な修復が始まるそうです。

最後に「旧杉山家住宅」を見学しました。大きな家です。江戸時代前期の大規模な商家の遺構として、国の重要文化財に指定されています。



杉山家は町の開設当初の8人の名主「富田林八人衆」の一人で、江戸時代を通じて町政に携わって来ました。17世紀半ばから酒造業を営み、醸造高30石から後には1300石に発展、河内の酒造業の中心的な役割を果たしてきたそうです。

かまどの大きさからも、家業の盛んな様子が知られます。盛時にはこの何倍ものかまどがあったとか。伝統的な農家風の建物ですが、一方で豪華な座敷、書院、茶室も備え、またラセン階段なども、モダンな意匠も取り入れられて、心地よい住宅になっていました。

杉山家の見学の後、15時過ぎに解散しました。

* * * * *

いつもながらの蛇足・補足で失礼します。

楠正成の事

富田林駅南口のターミナルに、巨大な石柱が建っていました。

「楠氏遺迹里程碑」、1901（明治34）年建と記され、高さ6～7m程もあるでしょうか。「千早赤阪城址へ3里32丁、観心寺楠公首塚へ3里9丁…」などと記されています。明治時代、楠正成は「大楠公（だいなんこう）」と讃えられるようになり、大義のため死を覚悟して戦に赴く姿が「武人・忠臣の鑑」、そして「日本人の鑑」として讃えられます。楠正成の遺跡を巡るブームが起き、ここがスタート点になったのでしょうか。



西行の墓所 発見の物語

江戸時代半ばの僧似雲（じうん）は歌集「としなみ草」の中で、仔細に記しています。和歌を好んで西行に私淑し、旅を愛して「今西行」と呼ばれるほどだった似雲。西行の墓所が知れないのを嘆き、弘川寺にあるらしいと聞き探し求めますが分かりません。そんな中で、近江の石山寺に参籠し祈願した折、ウトウトする中で不思議な夢を見ます。「笠に五位鷲（ごいさぎ）が舞い降り」ます。似雲は鳥肌が立ち、夢のお告げであろうと知恵を絞った末、ようやく答えを得るのです。「五位鷲、笠」の字を分解すると「五人路に立つ、鳥、竹に立つ」であろうと。（この部分はちょっとした頭の体操です。お分かりになりますでしょうか？字を偏と旁に分解して下さい。）似雲は七日の参籠が満ちた所で、早速弘川寺に向かいます。寺僧に案内して貰って、境内を探し歩きますが、一向に分かりません。その時15、6歳の小僧さんが言います。会話を再現するとこんな感じでしょうか。

（小僧）「この上に行塚（ぎょうづか）という所がありますが、
経塚（きょうづか）がなまったものではないでしょうか。」

（似雲）「いやいや、そうではあるまい。」

「西行塚」の「西」の字が、なくなってしまったのではないだろうか

という事で、行塚に行ってみると、夢のお告げの通りです。

一同の人数は、似雲を含めて5人が路に立っています。塚はうず高く、苔むした台石があり、しかも上には小さな竹が生えて、鳥が居たのです。

こんなドラマチックな展開の末、西行塚は発見され、似雲は堂を建てて西行を祀るのです。

その時の似雲の歌が残されています。「尋ね得て 袖に涙のかかるかな 弘川寺に残る古塚」悲願を果たした似雲は、20年後、この地で81歳で亡くなります。

ワインとコロッケの事

河内名所図会の富田林の項にはこんな事が書かれていました。「名産のブドウは農家の前庭の棚に多く植えられ、初秋に鈴のように稔って、市場に出される。味わいは他に勝って甘く、葡萄酒も名産である」と。なんとワインも作られていたのです。今、大阪府南部を電車で走ると、車窓にブドウ畑が広がって見えます。大阪府はブドウの大産地なのです。山梨県、長野県には及ばないものの、年に5,000トンを生産して、全国のトップ10に入っています。今日の「河内ワイン」の源が、名所図会に書かれていたのです。

また富田林は、野菜の大産地でもあります。海老芋も名産で、「海老芋コロッケ」を見かけたので、もともとて帰りました。外はサクサク、内はモチモチ、といっても里芋ほど粘るのではなく、優しい食感のコロッケでした。美味しくいただきました。



ご案内

旧友会員の方、職員の方、入会大歓迎です。入念な下見を行い、中途離脱も可能なルートを設定して、**毎月第4日曜日**に歩いています。メンバーはおよそ50名、その日の都合と体調に合わせて自由参加です。(事前に予約が必要な場合もあります)

3月は、和歌山を訪ねる予定でしたが、コロナリスクを避けて休会とします。

来年度の予定

- 4月 おこしやす京の五花街を巡る 続編 (京都)
- 5月 葛城山で森林浴を楽しむ (大阪・奈良)
- 6月 ベイエリア「港まち」を歩く (神戸)
- 7月 信楽高原鉄道に乗って陶芸の森を訪ねる (滋賀)
- 8月 休会
- 9月 隠岐の島の自然と歴史を訪ねる (2泊3日ツアー)
- 10月 大阪防災体験ツアー (大阪)
- 11月 京都トレイル第4回 銀閣寺前から比叡山まで (京都)
- 12月 納会 (大阪)
- 1月 燦歩会500回記念行事 第1回の白毫寺を訪ねる (奈良)
- 2月 燦歩会500回記念行事 浪花文学散歩と懇親会 (大阪)
- 3月 粉河寺と華岡青洲の里・小田井用水を訪ねる (和歌山 青春18切符利用)

参加ご希望の方は、会務担当山村恵一にご連絡下さい。

(電話：090-1484-4403、メール：y-yamamura@ares.eonet.ne.jp)

ご一緒に気軽に楽しく歩きましょう。

(写真・文 生島 幸弥)